

平成30年度
普及啓発部会取組報告

平成30年度取組方針

＜目標＞ 医療・介護が必要になっても、在宅で支援を受けながら生活することや、在宅生活の良さについて知る機会とし、自分事として考えることができる普及啓発を目指す

Plan

＜取組方針＞

- ①オーレンプラザでの普及啓発のシナリオを基に、普及啓発用のスライドを作成する
- ②市民に対して啓発を行う
 - ・職能団体内および職能団体が行う市民向け啓発講座での啓発
 - ・両市が行う市民啓発講座での啓発
- ③普及啓発実施後の市民の意識の変化を図るもの(アンケート)について検討を行う
- ④今後のスケジュール:平成30年5月までに事務局で普及啓発用のスライドおよびシナリオ原案を作成する

今年度の取組 1. 普及啓発用のスライド作成

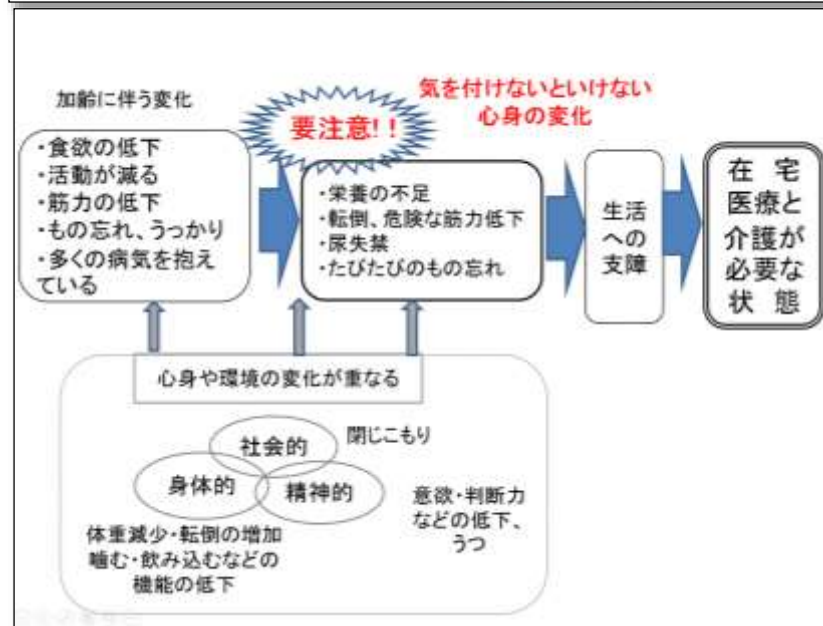
「**住み慣れた地域で暮らし
続けるために…**」
今、私たちができること

上越市・妙高市
在宅医療・介護連携推進協議会
普及啓発部会



本日の流れ

- 1 在宅医療と介護が必要になったときのために知っておきたいこと
- 2 いざというときのために、日頃から心掛けたいこと



一人暮らしをしている
近所の花子さん、最近
調子が悪いみたいで、
あまり見かけないし、
家事も思うようにでき
なくなったみたい。



花子さん、息子さんたち
も近くにいないし、買い物
とか病院とかどうして
るんだろうね。
病院にはちゃんと通って
いるのかな。



みなさんは、

自分や家族が
在宅医療や介護を必要とする
状態になったとき、
どこに相談しますか？

家族・子ども？

かかりつけ医？

ご近所のかた？
民生委員？



在宅医療や介護が必要
になったら、
まずここに相談！

地域包括支援センター

医療



介護



住み慣れたすまい



生活支援



介護予防

在宅医療や介護が必要になってもこの地域で暮らし続ける！

薬剤師の訪問の様子



服薬カレンダーへの薬のセット

医療と介護を必要としながらも在宅で生活できる



みなさんは、
自分が在宅医療や介護が必要になったとき、
どのように過ごしたいですか？
それを、まわりの人に伝えていきますか？

～みなさんで考えてみましょう～



本日のまとめ

1 在宅医療や介護が必要になったときのために知っておきたいこと

➡ 健康や介護のこと、生活の中で困ったことや心配なことがあれば、
地域包括支援センターに相談！

本日のまとめ

2 いざというときのために、日頃から心掛けたいこと

➡ 在宅医療や介護が必要になるときに備えて、自分がどう生活したいかを考え、まわりの人と共有しておく。

今年度の取組 2. 市民啓発講座での啓発活動

平成30年10月30日(火)10:00～11:30
すこやかに老いるための市民講座



会場：柿崎コミュニティプラザ



柴又薬剤師と金井ケアマネで
掛け合いを入れながら
進行しました。



金井ケアマネより、
実際の症例を紹介しながら、
自分事として参加者みなさんと
考える時間を共有しました。

平成30年10月31日(水)13:30～15:00
在宅介護を応援するカフェ



会場：上越地域医療センター病院



近所の身近にある話として、寸劇をしました。



参加者同士で話し合ってもらい、意見を伺いながら進行しました。



講座終了後、お茶を飲みながら座談会。

様々な質問や意見が出たり、ほかの方の話に耳を傾けたりと、盛り上がりました。

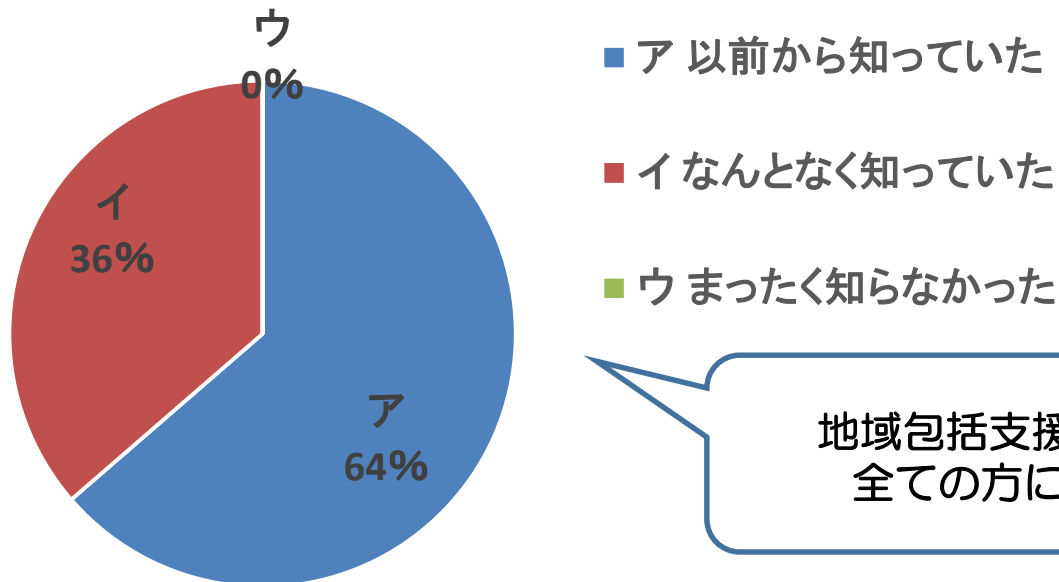
今年度の取組 3. アンケートの作成と調査と報告

「住み慣れた地域で暮らし続けるために…」今、私たちができること 講座参加者アンケート結果と感想

平成30年10月30、31日に実施した普及啓発講座について、参加者にアンケートを実施し、11人から回答を得ました。講座後のアンケートと感想をとりまとめましたので報告します。

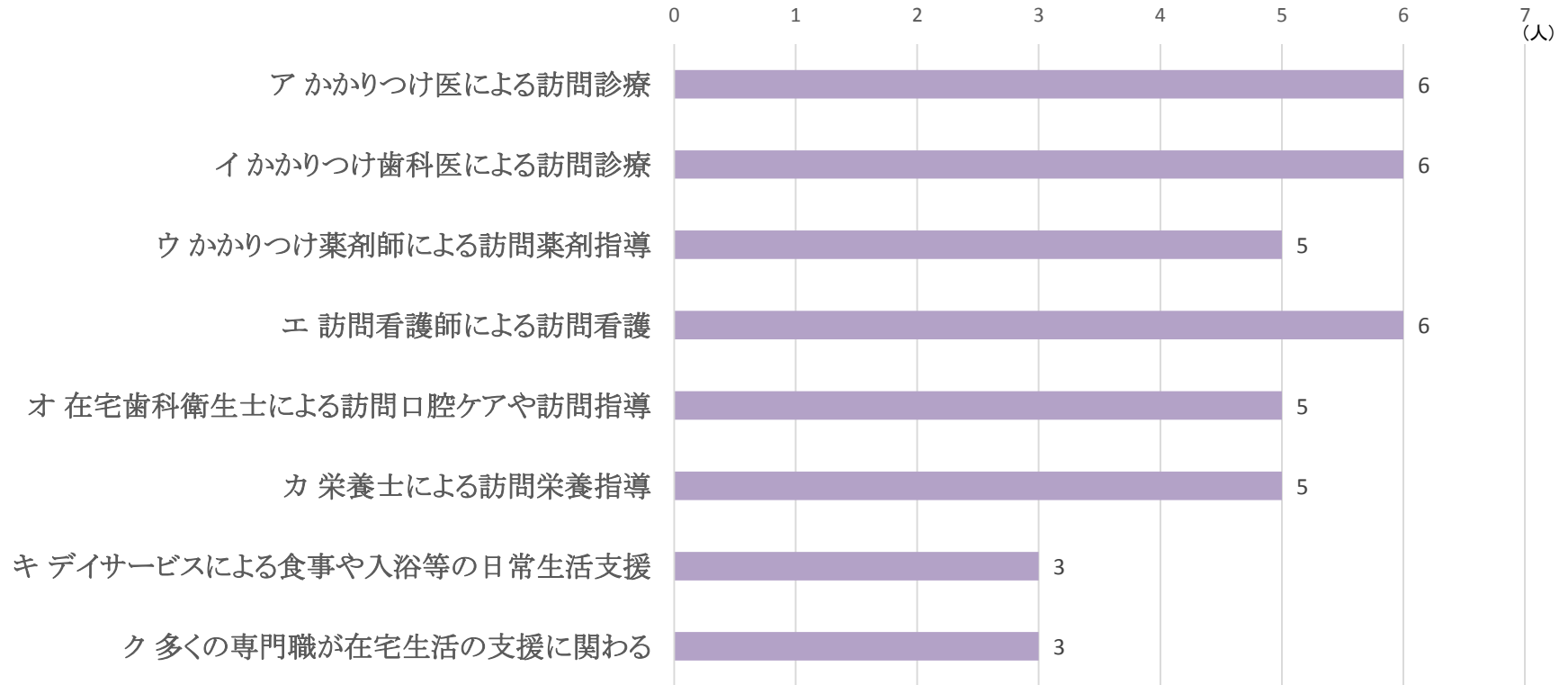
<参加者属性>

1. 居住地 上越市:100%
2. 性別 男性 :18% 女性:82%
3. 年代 40歳代:18% 50歳代:0 60歳代:37% 70歳代:27% 80歳代以上18%
4. 在宅医療や介護について困った時、
地域包括支援センターに相談することを知っていましたか



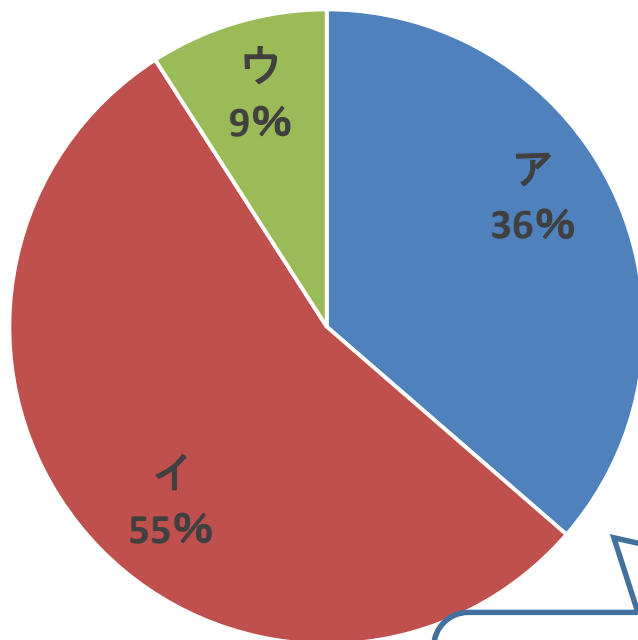
地域包括支援センターについては
全ての方に認知されていた。

5. 講座に参加して、初めて知った項目すべてにチェックをしてください



デイサービスによる食事や入浴等の日常生活支援と、多くの専門職が在宅生活の支援に関わることの認知度が高かった。

6. 在宅医療や介護が必要になった時に備えて、家族やまわりの人と話をしていこうと思いましたが。



- ア 早速話をしていきたいと思う
- イ すぐではないが、話をしていきたいと思う
- ウ 話をしたいとあまり思わない

在宅医療や介護が必要になった時に備えて、家族や周りの人と話し合いたいと考えた方が、9割以上であった。

【参加者からの感想】

- ・主治医の先生に自分の気持ちを伝えておくことが大切だなと思った。
- ・健康なのであまり考えていなかったが、講座を聞いて身近なこととして感じた。いざという時のために今から少しずつ考え、準備が必要だと感じた。

今年度の取組 4. 年3回の部会開催

- ①6/4
 - ・普及啓発のすみわけ
 - ・シナリオ案について

- ②10/5
 - ・普及啓発講座について
 - ・シナリオについて
 - ・アンケート作成

- ③12/21
 - ・普及啓発講座実施報告
 - 10/30 「すこやかに老いるための市民講座」
会場：柿崎コミュニティプラザ
 - 10/31 「在宅介護を応援するカフェ」
会場：上越地域医療センター病院
 - ・来年度に向けて

Check 普及啓発講座 担当者が感じたこと

よ か っ た 点	<ul style="list-style-type: none">・2人体制で講演することで、メリハリつけることができた・掛け合いを寸劇風にしたことで、スライド画面から話し手側に意識を引くことができた・「ありがちな近所の会話」を寸劇風に紹介し、他人ごとではないと感じてもらえた・講座後の座談会で、「講座を聞いて身近なこととして捉えた」など感想が聞かれた・参加人数が10数名で、話し合いや意見を言いやすい雰囲気だった・こじんまりしていたので会場の反応をみながらすすめられた
改 善 点	<ul style="list-style-type: none">・同じ資料でも、各論に偏り、総論が伝えきれなかった・バックグラウンドから近所の話しへのつながりができなかった・まわりの人と共有しておかないとどう困るか、を先に打ち出すとインパクトがでると感じた・実例を加えると、もう少しイメージがわかりやすい(近所とのつながりで助かった例、多職種が連携しうまくいった例など)・講座に座談会を抱合せるなどの講座の持ち方を工夫すると、より深まると感じた・周知方法について工夫や検討が必要・「普及啓発部会」でなく、どこの所属のどんな職種が話をするかが明確だと人が集まるのではないか

Act 平成31年度の取組方針

1. 普及啓発講座用スライドを活用する
～基本のスライドをベースに地域性、専門性等のアレンジは可能とする
 - ①各市の市民講座で活用する(地域包括支援センターを中心に)
 - ②職能団体内および職能団体が行う市民向け啓発講座で活用する
例:多職種連携部会で紹介し、活用を広げる
例:包括病床を有する病院で市民講座を開催し、市民に啓発する
2. 普及啓発講座用スライドを“がんぎネット”にアップし、活用しやすくする
視聴後にアンケートを記入いただき、それを積み重ねることで結果をできる限り有意なものにし、今後の啓発活動に役立てる
例:アンケートでは「在宅医療・介護についてご自分のあるいはまわりのこんな経験(大変だったこと・良かったことなど)あったらお聞かせください」の項目
- 3.新潟日報のイベント(リージョンプラザ)に参加し、普及啓発講座を開催する
4. そのイベントで開催した普及啓発講座を映像化し、市民啓発に役立てる
例:各市の健診待合室などの機会や、医院や調剤薬局などの待ち時間を活用して映像を流す
5. 普及啓発講座用スライドの活用後、スライドの改訂を検討する